

機関番号：32506
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007 ～ 2010
 課題番号：19520297
 研究課題名（和文）日本現存朝鮮古刊本の調査とその語学的・書誌学的研究
 研究課題名（英文）Survey of Korean Old Books in Japan
 A Linguistic and Philological Study
 研究代表者
 藤本 幸夫（FUJIMOTO YUKIO）
 麗澤大学・大学院言語教育研究科・教授
 研究者番号：70093458

研究成果の概要（和文）：日本には多くの朝鮮本があるが、何処にどのような書があるのか、詳細については極めて不十分で、研究者は非常な不便を嘗めてきた。筆者は従来37年に亘る研究に更にこの4年間の調査・研究を加え、日本全体の9割の調査をなし終えた。朝鮮本の調査・研究は朝鮮学研究のみならず、中国で既に失われた書が朝鮮で出版されて残っているので、中国学にも役立つ。さらに日本は朝鮮の文化的影響を深く蒙っているので、日本学にも裨益する所が多い。来年度には史部の刊行を予定している。

研究成果の概要（英文）：Although there are numerous Korean books in Japan, researchers have been greatly inconvenienced by the lack of detailed information regarding what sort of books there are, and where they can be found. I have spent these four years in the cataloguing of such Korean books, as I have been doing in the 37 years prior to this period, and as a result have succeeded in cataloguing 90% of Korean books in all Japan. Study of Korean books are useful not only in Korean studies but also in Chinese studies, since Chinese books which have been lost in China itself can be found as Korean publications. In addition, Korean books are also useful in Japanese studies, since Japan has been deeply influenced by Korea culturally. Next year, I intend to publish the catalogue of Korean history books found in Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：文献学

1. 研究開始当初の背景

日本は古代より朝鮮文化を積極的に受容してきた。その中でも中心をなすのは書籍である。現在日本には本国に既に失われた貴重書を含む、膨大な量の朝鮮本が伝存している。その内の極一部は各図書館や文庫の目録に収録されている

が、記述は不完全で、学術的研究に資し得るものは少ない。研究者は資料を調査しようとしても、何処に、何書があり、それがどのような版種であるのか、という最も基本的な情報も不十分で、不便をかこってきた。筆者も又その1人であった。

2. 研究の目的

日本現存朝鮮本の上記の如き現状を踏まえ、日本各地に同一書名の書籍が散在していても、刊年・版種・同版異版等の識別の明確な目録があれば、1ヶ所だけの調査ですみ、費用や労力が格段に軽減しうるのである。そこで筆者は朝鮮本の研究及び朝鮮出版文化研究を中心に据えつつも、同時に従来にない詳細な目録の学会への提供を企図した。筆者は日本全国に伝存する朝鮮本全てを同一人の目で、可能な限り詳しく調査し、学会の基本資料として提供すべく、37年間調査及び研究を重ねてきた。

従来知られていなかった版本や写本の発見、版種の確定を行い、藍本と覆刻本との関係、記録や刻手名を利用したの地方における出版文化の闡明を行ってきた。又中国本が朝鮮で多数出版されているが、その藍本は既に中国で失われ、朝鮮だけに残存する事も多い。それらを明らかにすることは中国学に裨益すること大きく、また中・朝文化交流を闡明することにもなる。

更に日本には奈良時代以降古代朝鮮から多くの朝鮮本が流入し、それらは写本として、或いは刊本として日本で利用されてきた。その内容は仏教・歴史・経書・文学・医学・本草・数学等々の広範囲に亘る。従って朝鮮本の研究は、日・朝文化交流史のみならず、日本の学問・学術の在り方の研究に、大いに寄与することになる。筆者は以上の如く、朝鮮本の研究は朝鮮学にのみ裨益するのではなく、中国・朝鮮・日本三国の文化史研究にも有用であるとの立場から研究を進めている。

3. 研究の方法

上記の如く日本全国を調査対象とするが、地方の図書館や文庫では目録のない所も多く、直接書庫に立ち入って調査をすることもある。書籍調査にはその対象とする視点が何点かあり、それが多ければ多いほど詳細となり、利用価値は増す。従来朝鮮本を1人で調査した人はおらず、今後もそのような人物の出現は望みえないと思われる。実際の調査に従事すると、滞在費や調査時間の問題があり、十分な調査が行われがたいのである。筆者は今後筆者の如き悉皆調査を行う人物が現れがたいことに思いを致し、時間と労力をかけても、筆者の記述を見れば、原本が彷彿とすることを理想また目標として調査・研究を行っている。

従って1部につき28項目を調べて

いる。それは、

書名・巻数・冊数	撰者・編者・被伝者	版種	刊者
刊年	刊地	装丁	寸法
紙質	版式	版心	構成
序文	跋文	刊記	
原刊記	刻手名	内賜記	
諺解	吐	21 封面	22 蔵書印
23 識語	24 註記	25 撰者伝	
26 藍本	27 研覈	28 所蔵者	

これには随分な調査時間を要するが、不十分なものは結局は役に立たないという経験から来ている。全ての張をめくり、脱張も記述している。場合によっては序文・跋文など、構成の一部が何らかの理由で脱落していることもあるので、全ての書について、構成を示している。また活字の種類・同版異版の識別・刊者・刊地・序文及び跋文中の刊行に関わる部分の引用・蔵書印・撰者の詳細な経歴等を記述している。これらの多くは本国である韓国で多く出されている目録でも著述されていない。

さらに地方刊本に於いては、版心部にその版本を彫った刻手の名前が刻されていることがある。筆者は調査の当初よりそれらを記録してきている。既に5~6000種に及ぶ。朝鮮の刊行書には刊行時期や刊行地の記されていない場合が甚だ多いが、刻手名によってそれらを決定しうる場合もある。

調査対象となる図書館・文庫は、朝鮮本を多く所蔵することで有名な宮内庁書陵部・内閣文庫・東洋文庫・成篋堂文庫・静嘉堂文庫・尊経閣文庫・大東急記念文庫・岩瀬文庫・国会図書館・蓬左文庫・宗家文庫・東京都立図書館・宮城県立図書館・大阪府立図書館・米沢市立図書館・東京大学図書館及び諸部局・京都大学図書館及び諸部局・東北大学図書館・九州大学図書館・早稲田大学図書館・慶応大学図書館・天理大学図書館・関西大学図書館等々、100余ヶ所に上る。また明治期まで日本にあり、その後流出した台湾故宮博物館蔵楊守敬旧蔵書・イギリス大英図書館蔵アーネスト・サトウ旧蔵書も、日本現存に準じて調査を行った。

4. 研究成果

37年間の調査・研究をさらに4年間進めることができ、大きく進展する事が出来た。国会図書館・足利学校図書館は完了し、多部の朝鮮本を所有することで著名な東洋文庫及び天理図書館は3分の

2を完了しえた。またその他の多くの図書館でも補足調査を成し得た。『千字文』に関する論文は、書誌学的成果を基底にした語学論文で、古い『千字文』の大部分は日本に伝存することが確認され、古くは地方ごとに漢字の訓が異なることを明らかにした。

イギリス大英図書館及びフランスのギメ美術館所蔵朝鮮本目録は、本格的な著録は筆者によるものが初めてで、貴重な図書の多いことが明らかになり、イギリス・フランスや韓国の学者から重宝されている。

ギメ美術館の朝鮮本は直接朝鮮から購入されたもので、それも18世紀後半以降の購入であるため、成宗中刊本『詳校正本慈悲道場懺法』・高麗写経『法華経』残巻を除いては特に注目されるべき書籍はなかった。

大英図書館所蔵本は、幕末から明治初期にかけてのイギリスの外交官アーネスト・サトウ(1843-1929)による蒐集である。サトウは日本の出版文化に惹かれ、平安時代から幕末に及ぶ広範囲の書籍を購入した。明治初は価値観の変換期に当たり、漢籍や国書が寺院・旧大名・旧貴族・武家などから夥しく流出した。丁度その時期に際会したサトウは、日本の古書肆や蒐書家の幫助を得て、江戸を中心に、時には京都や大阪に出向いて善本を買い入れた。彼の蒐書は海外における日本書の、質・量ともに最大のものである。サトウは16世紀末から17世紀前半にかけて盛行した日本の活字印刷に関心を持ち、所謂古活字本を自ら蒐集した。更に日本の活字印刷技術が朝鮮から来たという事実を検証するためであろうと思われるが、多数の朝鮮本をも求めた。それらの朝鮮本は幕末まで日本に伝存したもので、非常に質の高い善本である。サトウ旧蔵朝鮮本は残念ながら、原本数冊が洋装1冊に改装されて原装を留めず、また原表紙の多くが廃棄されている。しかし本文はよく保存されている。

貴重書は多く枚挙に堪えないが、その大部分は日本に伝わっている。却って韓国では失われ、またあっても零本や残本である。天下の孤本というべきものをあげれば、大型本『聖学十図』(1568)・『三車一覽命書詳論』(明宗宣祖初葉間)がある。

又朝鮮には内賜本なるものがあり、これは政府から新たに書籍が刊行された時、臣下に賜る書籍である。既に高麗時代に確認されており、朝鮮王朝を通じて行われた。これまで確認しうる最も古い

内賜本は、大谷大学所蔵燕山君7年(1501)甲辰字印本『大同宣府軍門練武図式』であった。ところがサトウ旧蔵書中より世宗24年(1442)甲寅字印本『春秋経伝集解』30巻(闕巻21・22)が発見された。これは世宗朝の名臣梁誠之内賜本である。内賜本には書籍が下された年月を記すものであるが、これには記されていない。『世宗実録』を検するに、世宗の頃には年月が記されていないようである。しかし梁誠之に付された官銜から見て、同書巻末刊記にある世宗24年9月と看做し得、これが現在確認しうる最も古い内賜本といえるのである。

上記の如く朝鮮本の版心部から5-6000種の刻手名を集めており、これらは刊行地や刊行時期を特定するのに決定的役割を果たす。韓国では殆どなされていない。

足利学校所蔵の古書分類目録を改編するに際し、旧知の長沢孝三氏から依頼を受け、朝鮮本を専門家として鑑定し、その成果を目録に反映せしめた。

京都大学図書館には18世紀後半に作成された拓本集217冊が伝わる。韓国にこの僚巻数冊が伝わるのみで、天下の孤本と言い得る。この拓本作成後200年余が過ぎ、石碑自体が消失したのもあり、現存していてもその後の摩滅や破損が多く、研究価値が低下している。そのような意味で、この拓本は誠に貴重な第1次資料である。全冊の調査を完了した。

筆者は研究成果公開促進費を得て、2006年2月に『日本現存朝鮮本研究集部』(A4版上下二段1316頁 京都大学学術出版会)を刊行した。この書は高く評価され、瑞松韓日学術文化賞(2007年 韓国)・宝冠文化勲章(2007年 韓国政府)・東崇学術賞(功劳賞 2007年 韓国)・第1回岩瀬弥助記念書物文化賞(2008年 愛知県西尾市)、更に中国文学にも寄与したとして橋本循記念会 第16回蘆北賞(著者部門 2006年)を受賞した。

今後未調査書の調査・研究を継続すると共に、来年度には第2冊目である『日本現存朝鮮本研究 史部』を刊行の予定である。更に経部・子部、図版・総索引を計画している。

学会発表は全て招待講演で、これまでの調査・研究を踏まえて、朝鮮本を巡る事柄について、専門家・大学教員・大学院生或いは一般聴衆を対象にしたものである。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

藤本幸夫 「国立ギメ東洋美術館所蔵朝鮮本に就いて」 『朝鮮学報』 218 1 - 37 頁 2011 年 1 月 査読有

藤本幸夫 エリザベス・ドロシイ・マッキロップ共著 「大英図書館所蔵朝鮮本について」 『朝鮮学報』 216 1 - 63 頁 2010 年 7 月 査読有

藤本幸夫 「高麗の出版文化」 『日本仏教と高麗版大蔵経』 12 - 16 頁 2010 年 査読無

〔図書〕(計 9 件)

赤尾栄慶編 『建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究 建仁寺両足院聖教目録』 上下二段 550 頁 2011 年 3 月

藤本幸夫 他 「日本伝存朝鮮仏教書」 『新東アジア仏教史』 10 佼成出版社 上下二段 138 - 141 頁 2010 年

赤尾栄慶編 『建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究 建仁寺両足院聖教目録』 上下二段 322 頁 2010 年

藤本幸夫 他 『2002 - 2007 / 環日本海講演会 記録集』 鳥取県立図書館 総 175 頁 105 - 140 頁 2010 年

赤尾栄慶編 『五山禅宗寺院に伝わる典籍の総合的な調査研究 建仁寺両足院蔵書本を中心に』 上下二段 500 頁 2010 年

藤本幸夫 他 『新アジア仏教史』 佼成出版社 138 - 141 頁 2010 年

長沢規矩也・長沢孝三編 『新編 史跡足利学校所蔵古書分類目録』 足利市教育委員会事務局・史跡足利学校事務所 上下二段 147 頁 2010 年

藤本幸夫 他 『五山禅宗寺院に伝わる典籍の総合的な調査研究 建仁寺両足院所蔵本を中心に』 上下二段 512 頁 2008 年

藤本幸夫 他 「朝鮮版『千字文』について」 『国語史研究は何処まで来ているか』 韓国延世大学校国学研究院 (韓国語にて執筆) 459 - 471 頁 2007 年

〔その他〕招待講演

藤本幸夫 「高麗の出版文化」 仏教大学シンポジウム 2010 年 10 月 30 日 仏教大学

藤本幸夫 「日本現存朝鮮本とその研究」 韓国東国大学校 BK21 事業講演会 2010 年 2 月 20 日 韓国東国大学

藤本幸夫 「朝鮮本について」 国際仏教

学大学院大学講演会 2009 年 5 月 29 日 国際仏教学大学院大学

藤本幸夫 「朝鮮出版文化と日本」 COE 講演会 2009 年 4 月 26 日 仙台市博物館

藤本幸夫 「日本所在韓国古文獻に対する調査とその書誌学的研究」 韓国成均館大学校翻訳大学院講演会 2008 年 4 月 18 日 韓国成均館大学校

藤本幸夫 「日本出版文化と朝鮮」 韓国延世大学校大学院講演会 2008 年 2 月 18 日 韓国延世大学校

藤本幸夫 「東アジアの出版文化」 富山大学人文学部講演会 2008 年 1 月 28 日 富山大学人文学部

藤本幸夫 「韓国書誌学の諸問題」 韓国ソウル大学校奎章閣講演会 2007 年 12 月 7 日 韓国ソウル大学校

藤本幸夫 「朝鮮本の話」 朝鮮コロキウム 2007 年 11 月 7 日 東京大学文学部

藤本幸夫 「韓国出版文化と日本」 第 5 回環日本海講演会 2007 年 10 月 20 日 鳥取県立図書館

藤本幸夫 「朝鮮の訓読を巡って」 国際シンポジウム 2007 年 9 月 9 日 二松学舎大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤本 幸夫 (HUJIMOTO YUKIO)

麗澤大学・大学院言語教育研究科・教授

研究者番号：70093458